

ぼけ一一〇番（一九八〇年～）

それまで一家のあるじとして、或いは、主婦として、家族みんなを支えてこられた人が、認知症になられただけでも、途惑うことばかりなのに、突然、激しく怒りだされたり、真夜中に裸で外へ飛び出そうとされるので、お世話をされるご家族は、一瞬も目が離せず、また、どうしたらよいのか途方に暮れるばかりでした。このままでは、家族共倒れ、家庭崩壊さえも起しかねない状況でした。

そこで、三六五日二十四時間いつでも、電話で、的確な対応法を、認知症専門家の山本病院の医師やケースワーカーがお教えするための、ぼけ一一〇番を一九八〇年六月に始めました。

「ぼけ一一〇番」という名称は、あまり良くなかったけれども、「朝日」や「読売」で報道されたこともあって、多くのご家族から、様々なご相談を受けました。

患者さんのことを大切に思っていच्छることが、電話口からひしひしと伝わってきて、胸が打たれる想いがしました。

一日も早く、「認知症介護の三原則」が普及して、患者さんもお家族も悩みから解放されて、ぼけ一一〇番が必要でなくなる日が、早く来るのを願いながら、お電話を待っていました。